

## 事務事業計画書兼評価表(A表)

### 1 事務事業に関する基本情報

				平成	30	年度
事業番号	837		事業名	若桜鉄道対策費		
担当課	企画課		担当係	若桜鉄道運行対策室		
総合計画に最も関連ある施策	施策	3	安心安全な暮らしづくり	連絡先	0858-76-0212	
	施策体系	2	道路・交通環境の充実	事業区分	□新規 ■継続	
	主な事業	若桜鉄道対策事業				
予算区分	款	2	総務費	事業実施主体	■八頭町 □その他	
	項	1	総務管理費			
	目	19	若桜鉄道対策費	計画期間	開始	平成21年度
	事業	837	若桜鉄道対策費		終了	—

### 2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 町民		
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 若桜鉄道利用客の利便性を向上を図り、安全で安定した鉄道運行を維持する。また、若桜鉄道を活用した観光振興を図る。		
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 地域公共交通確保維持改善事業(国庫補助事業)による軌道設備の更新、鉄道施設保守管理業務等による軌道設備の維持管理や駅舎等の管理業務。観光列車への改修並びに八東駅行き違い施設施設の整備。		
事業の手段	どうする方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 軌道設備の更新や軌道設備の維持管理、車両の改修に関しては、若桜鉄道(株)に業務委託を行い実施する。駅舎管理等は町で直接管理する。		
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 安全で安定した鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上が図られる。若桜鉄道(株)の黒字化を目指す。		
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし	法令等名→ 鉄道事業法

### 3 活動指標、成果指標

活動指標	A	人	事業の手段を図るものさし 輸送人員
	B		
	C		
	D		
成果指標	E	千円	事業の成果、到達点を図るものさし 若桜鉄道(株)経営収支
	F		
	G		
	H		

### 4 コスト

区分	単位	H27年度	H28年度	H29年度		H30年度		R1年度	
		実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
活動指標	A	325,191	310,971	285,000	325,597	326,000	350,881	361,000	
	B								
	C								
	D								
成果指標	E	33,267	9,349	7,500	12,805	7,500	268	120	
	F								
	G								
	H								
トータルコスト	千円	117,122	149,018	140,883	140,326	418,014	253,006	189,109	
担当職員数	人	1.0	1.0	1.0	1.00	1.0	1.00	1.0	
職員人件費	千円	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	
事業費	千円	109,122	141,018	132,883	132,326	410,014	245,006	181,109	
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	26,645	30,355	18,982	16,782	75,985	42,138	47,547
	県支出金(交付金・補助金)	千円	18,712	16,152	17,016	16,783	17,128	15,014	17,128
	地方債(借入金)	千円	31,900	53,400	65,300	66,700	175,200	113,000	79,600
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	29,496	39,850	29,648	29,690	139,677	72,665	33,969
	一般財源(単町費)	千円	2,369	1,261	1,937	2,371	2,024	2,189	2,122

## 事務事業計画書兼評価表(B表)

### 5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 30 年度

実施活動内容・成果(到達点)	<p>実施活動内容(具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公有民営方式にて、八頭町・若桜町は軌道並びに車両の保守・維持管理及び設備改良等を実施し、年間を通して安全な旅客輸送を確保した。</li> <li>・昭和62年に購入した車両を大規模改修に併せて観光列車へリニューアルし、2018年3月に導入した観光列車「昭和」に続く第2弾となる「八頭号」を2019年3月に導入した。八頭号グッズ製作や昭和・八頭号を活用したツアー商品を作成し、「昭和」「八頭号」を活用した観光誘客に取り組んだ。</li> <li>・若桜鉄道を利用して通学する高校生の通学定期購入金額の1/2を助成し、通学旅客並びに運輸収入の確保に努めた。</li> </ul> <p>成果(具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年4月から八頭町・若桜町が車両を町有化したことや、高校生への通学定期半額助成の効果もあり、若桜鉄道(株)の平成30年度決算は3期連続の黒字となった。また、2018年3月に導入した観光列車「昭和」の団体向けツアーも人気を博し、輸送人員・旅客収入ともに増加するなど、「昭和」効果も徐々に見始めている。</li> </ul>
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
<b>必要性</b> (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	通学・通勤や高齢者など交通弱者の生活交通の確保を図るため、大量輸送のできる公共交通としての鉄道の確保は必要である。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
<b>妥当性</b> (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	鉄道事業再構築実施計画を策定し、第三種鉄道事業者として町が鉄道の安全輸送を確保する必要があるため、妥当性は高い。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
<b>効率性</b> (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	鉄道施設整備の施工業者は限定されるため、コストは割高となる傾向があるが、受託先の若桜鉄道(株)では、修繕の発注に際しては指名競争を実施することで、価格の適正性の確保に努めている。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
<b>緊急性</b> (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	地域住民の交通を確保するとともに、観光振興を図るためにも、早急な対応が必要である。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
<b>成果</b> (目的の達成状況)	20	20	①成果が上がっている	鉄道の安全輸送と若桜鉄道の経営改善が図られた一方、今後も若桜鉄道の乗車人員及び旅客収入を維持するためには、一層の営業努力が必要であるため、収支状況には引き続き注視が必要である。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	79	鉄道の安全輸送と若桜鉄道の経営改善を図ることができた。若桜鉄道の乗車人員及び旅客収入は、観光列車「昭和」「八頭号」の導入もあって一定の成果が得られているものの、引き続き安定した収入と輸送人員を確保するためには、ツアー商品の造成・グッズ開発等、観光需要を注視しつつ新車両を年次的に導入し、若桜鉄道の一層の営業努力を推進させるとともに、沿線団体との協力体制の構築等地域における気運の醸成を図っていく必要がある。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点		
	4、見直しの上縮小する	40～49点	2	
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	<p>大量輸送や定時運行が可能な若桜鉄道は、地域において重要な公共交通機関であるとともに、近年では地域資源や観光資源としての価値も見い出され、町外から人を呼び込むツールとしても重要性が増しているところである。鉄道の運行や施設管理には莫大な費用が掛かり、国・県の補助金や過疎対策事業債が活用できるとは言え、町の実質的な負担も少なくはなく、また、人口減少や経済的負担感の大きさ等による通勤・通学利用客の減少等により、これまで営業収益は低迷している状況にあった。若桜鉄道線の経営改善を図るため、平成28年度にはこれまで若桜鉄道(株)が保有していた車両(4台)を八頭・若桜両町の所有としたところであり、平成28年度から開始した通学定期助成制度による運賃収入の確保も相まって、若桜鉄道線の営業収益は改善された。また、観光事業において、各種イベントの実施や広域観光ルート化や周辺観光施設とのマッチングなどの事業を展開するとともに、平成29年度からは観光列車の導入による新たなツアー事業も開始され、その後経営収支は上向きとなっている。今後、車両計3台の観光列車化を着実に完了させ、観光機能の更なる強化による収入源の維持・確保が期待されることであるが、より多くの利用者の誘致につなげるとともに、安定的で継続的な事業展開となるよう、若桜鉄道(株)に対する営業努力・経営改善の要請を含め、効率的・効果的な事業実施に努めていただきたい。</p>
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

### 7 課題及び今後の方向性

課題	<p>事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度から車両を町有化したことや高校生の通学定期半額助成等が効果を上げ、若桜鉄道の収支は回復・安定しつつあるものの、生活交通としての利用者は依然として減少傾向にあることから、新たな需要創出など輸送人員と運賃収入の確保を図るための施策展開が必要である。</li> </ul>
今後の方向性	<p>上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、観光列車の3次車を導入し、ツアー造成による観光客の更なる誘致を促進させるとともに、観光列車の運行演出の磨き上げを図るため、駅舎をレトロ調に改修し、鉄道の観光開発を一層進めることとしている。</li> <li>・また、これらの取組と併せて若桜鉄道の更なる利便性向上のための取組を推進するため、八東駅への行き違い施設の整備を行い、ダイヤ改正を行うことで輸送人員の増加と利便性の向上を図る。</li> </ul>